

事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称	施策Ⅱ-5-5 農山漁村の多面的機能の維持・発揮
---------	-----------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	農業経営課長 栗原 一郎	電話番号	0852-22-5392
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	地域貢献型集落営農連携・強化支援事業
目的	(1) 対象 ①島根県農業再生協議会、②集落営農組織発起人会、③集落営農組織 (2) 意図 担い手不在地域における集落営農の組織化と集落を越えたサポート体制の構築による担い手不在地域の解消や地域貢献活動の取組支援を行うとともに、後継者確保に向けた人材育成、経営の多角化と組織間連携などによる雇用機会の創出と経営体質の強化により、農業・農村の活性化を図る。
事業概要	農業をはじめ、地域コミュニティの再生や集落の維持・活性化に貢献する「地域貢献型集落営農」の育成とともに、Uターン者を含めた雇用の受け皿としての機能強化や複数の組織等による広域連携法人への発展を支援することで、島根県の農業及び農村の活性化を図る。 【地域貢献型集落営農の定義】 農地の維持、地域経済の維持（女性・高齢者等の生き甲斐や所得確保等）、生活の維持（生活支援、福祉、環境保全等）、Uターン者を含めた地域の人材確保などに貢献する地域公益的な集落営農組織。

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 農業法人数（集落営農法人数）	目標値	200.0	229.0	248.0	267.0	286.0	法人
		取組目標値						
	式・定義 各年度末の実数	実績値	209.0					
		達成率	104.5	-	-	-	-	%
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	47,373	53,600
うち一般財源(千円)	47,373	53,600

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

平成20年度から、営農活動以外の地域のコミュニティ再生や集落の維持・活性化に貢献する地域貢献活動を行う集落営農組織の育成・確保を推進している。平成27年度は、前年に比べて15組織（新規設立6＋機能強化9）が増加し、ほぼ計画どおりに新たな集落営農組織を育成することができた。今年度より経営力の強化を図るため集落営農の法人化を強化した結果、18法人を設立することができた。（集落営農法人数：H26 191法人 → H27 209法人）

6. 成果があったこと（改善されたこと）

集落営農組織数は、平成27年度末で621組織となり、集落営農法人数も209法人と増加することができた。
また、営農活動以外の地域貢献活動に取り組む集落営農組織も増えた。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
近年、集落営農の組織化が鈍化してきている。
- ②困っている状況が発生している「原因」
引き続き農業者の高齢化が進み、TPPや米価の下落等経営環境は厳しさを増し、さらに平成30年から米政策が見直しされるなど、農業者は将来に不安を抱えている状況にある。
- ③原因を解消するための「課題」
農業者の不安を解消するため、「多業化による所得の増大」、「新規就農者の定着」、「農地集積の拡大」の具体化が急務である。県内の先進事例を見ると、集落営農法人等による広域連携組織を形成し、農地を集積し所得を増大している事例がありさらに県内に広げていく必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

小さくても農地の受け手となる集落営農法人を育成し、地域資源を活用した小さな起業により仕事の創出と所得の確保を図っていく。単独組織では難しい取り組みは、組織間の広域連携で取り組んでいく。
また、広域連携組織の育成を加速させていくために、支援施策を検討していく。

9. 追加評価（任意記載）

課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。
上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。